

第4 1回事業所対抗消火競技大会実施要綱

1 目 的

この大会は、各事業所の職員及び自衛消防組織が、火災発生時の早期通報並びに初期消火技術の向上と防火意識の高揚を図ることを目的とします。

2 主 催 喜多方地方消防防災協会

3 共 催 喜多方地方広域市町村圏組合消防本部

4 日 時

令和6年9月3日（火）9時15分 ※雨天の場合は、車庫・訓練棟で実施します。

5 会 場

喜多方地方広域市町村圏組合消防本部敷地内

喜多方市関柴町上高額字割田4番地1

（別紙 第4 1回事業所対抗消火競技大会会場 参照）

6 競技種目

（1）消火器の部〈男子の部〉〈女子の部〉

（2）屋内消火栓の部

※ 別紙1. 2（消火器・屋内消火栓競技実施要領）による。

7 申込み等

（1）8月5日（月）から8月23日（金）まで

（2）別紙3（第4 1回事業所対抗消火競技大会申込書）により、郵送、FAX又は電子メールで申し込み下さい。

郵送先 〒966-0015 喜多方市関柴町上高額字割田4番地1

喜多方消防本部予防課

FAX 0241-24-4011

電子メール fdyobo@kouiki.kitakata.fukushima.jp

（3）消火器の部 男子・女子の部 各20名

屋内消火栓の部 10チーム（2名1組）

（各部門とも先着順とし、定員になり次第締め切ります）

8 連絡事項

（1）午前9時10分までに受付を済ませて下さい。

（2）出場者は9時15分までに開会式の隊形に整列して下さい。

（3）競技開始の放送がありましたら、出場者は直ちに集合位置に移動し、係員の確認を受け競技準備に入して下さい。

（4）各競技開始前に、消防職員による競技の展示を行います。

9 服 装

選手は運動しやすい服装とし、安全のために手袋、作業帽、長袖・長ズボン等を着用して下さい。

10 保険の加入

大会事務局で参加者全員のスポーツ保険を一括して加入します。

11 表 彰

消火器の部（男子・女子）、屋内消火栓の部とも第3位まで表彰します。

部門別に特別賞を授与します。

出場選手全員に参加賞を贈呈します。

12 その他

大会の運営、競技種目等に質問がある場合は、下記問い合わせまでご連絡下さい。

問い合わせ 喜多方消防本部予防課 仲島、内海

TEL 0241(22)6213 FAX 0241(24)4011

消火器競技実施要領

- 1 各事業所とも複数名の参加を可能とします。
- 2 消火器は大会事務局で準備する水消火器（訓練用）を使用します。
- 3 競技内容
 - ・競技は別紙 4（消火器競技コースレイアウト）A 地点からピストルの合図でスタートし、「火事だー」と大声で知らせながら通路を通り B 地点へ向かう。
 - ・B 地点で消火器を持ち「火事だー」と大声で知らせながら通路を通り A 地点へ向かう。
 - ・A 地点（消火帯）で、火点 2 箇所を倒し終了となります。
- 4 審査方法

各チームに持点 100 点を与え、減点法により採点し、その残点の合計をチーム得点とします。

 - (1) タイム得点（持点 50 点）

スタートの合図から消火終了の赤旗が上げるまでの時間を計測し、所要時間 1 秒 1 点の割合で差し引いた残りの値をチームの得点とします。

タイムは 2 名で計測し、2 名のタイムが同一の場合はその値とします。タイムが異なる場合は中間値とします。
 - (2) 動作得点（持点 50 点）

ア 「火事だー」の呼称ない場合（往復）又は声が小さい場合
イ 通路のコーンを跨いだり倒した場合
ウ 消火帯以外で安全栓を抜いた場合や消火ライン（A 地点）を踏み超した場合
エ 不完全消火（火点の不転倒）の場合
オ 転倒又は消火器を落下させた場合

動作得点（持点 50 点）より、上記減点を差し引いた残りの値を動作点数とします。
 - (3) 順位の決定

タイム得点と動作得点を合計し、その値の大きいものを優位とします。
- 5 競技上の注意
 - 消火する際に左右に移動しても構いませんが、消火ラインは超えないこと。
 - 消火器で消火できない場合は、その時点で終了といたします。
 - 怪我予防のため、借用を希望の方はプロテクターを貸し出しますので事務局にお声掛けください。協議スタート時に貸し出しをしますので、競技終了後返却して下さい。なお、転倒による怪我には十分注意して下さい。

屋内消火栓競技実施要領

- 1 参加資格は、消防法第17条で定める防火対象物のうち、屋内消火栓を有する事業所とします。
- 2 1事業所1チームの出場とし、チームは2名編成とします。
- 3 事業所が準備する物
 - (1) 屋内消火栓用ホース2本（内径が40mm、長さ15m以上のもので、差込式の結合金具を有するもの）
 - (2) 簡先1本※ホース及び簡先が準備できない場合は、事務局で準備しますのでご連絡をお願いします。
- 4 競 技
 - (1) 操作員は、1番員、2番員の2名とし、1番員は指揮者を兼ねる。
 - (2) 競技開始
 - ア 競技は別紙5（屋内消火栓競技コースレイアウト）スタート位置（A地点）に1番員、2番員が横に整列し、1番員が「準備完了」と呼称する。
 - イ 進行係は、「準備完了」の呼称後に、スタートの合図をピストルで行います。この時点から競技開始となります。
- 5 競技行動
 - (1) 消火開始
 - ア 1番員は2番員に「操作始め」と号令後、屋内消火栓に至り、起動ボタンを押し、扉を開けてホースを出し、簡先及び第1ホース、第2ホースを火点に向かって延長して下さい。延長は、通路を右に1回曲がり、注水帯前で余裕ホースを取った後、注水帯から火点に簡先を向けて構え、2番員が通路の放水開始伝達位置に来たのを視認した時点で「放水始め」と呼称し放水の姿勢をとって下さい。
 - イ 2番員は1番員の「操作始め」の号令後屋内消火栓BOXに至り、1番員のホース延長を補助しBOX前で余裕ホースを取って下さい。余裕ホースを取った後、通路を2回左に曲がり、放水開始伝達位置で止まり、1番員が注水帯にいるのを視認し、1番員から「放水始め」の呼称があった後、「放水始め」と復唱し、消火栓ボックスに戻り、消火栓バルブを全開して下さい。送水されるのを確かめ、ホースのねじれを直しながら、注水帯に至り1番員の後方でホースを両手で持ち補助にあたってください。
 - ウ 1番員は左右の2つの火点に向かって注水して下さい。
 - (2) 放水停止
 - 左右の火点が倒れたら（赤旗が上がる）、1番員は「放水止め」と呼称し、2番員はホースを離して「放水止め」と復唱し消火栓ボックスに戻り、消火栓バルブを閉めて送水を止め再び1番員のもとに戻り「よし」と呼称して下さい。
 - (3) 収 納
 - 1番員は、2番員の「よし」を聞き、気をつけの姿勢として「収め」と号令し、1番員は簡先と第2ホース、2番員は第1ホースを収納して下さい。

6 審査方法

各チームに持点300点を与え、減点法により採点し、その残点の合計をチーム得点とします。

(1) タイム得点 (持点200点)

- ア タイムは2名で計測し、2名のタイムが同一の場合はその値とします。タイムが異なった場合は中間値とします。
- イ 通報後受話器を置き、スタート位置に戻り1番員とタッチした時点から、1番員が火点を倒す(赤旗が上がる)までの時間を計測し、所要時間1秒1点の割合で差し引いた残りの値をチームの得点とします。

(2) 動作得点 (持点100点)

- ア 起動ボタンを押し忘れた場合
- イ 余裕ホースを取らなかった場合(消火栓ボックス付近及び注水帯手前)
- ウ ホースの延長、取扱い不良の場合
(コーナーの余裕ホースが取れていない、ホースのねじれ含む)
- エ 1番員・2番員が、「放水始め」の呼称をしなかった場合
(1番員は、2番員が放水開始伝達位置に居るのを確認せずに放水始めをした場合も同様とする。確認して再度放水始めの呼称をした場合は減点しない。)
- オ 「放水始め」の呼称の前に消火栓バルブを開いた場合
- カ バルブを完全に開かない又は閉じない場合
- キ 注水帯の外で注水した場合
- ク 火点が倒れる前に放水止めをした場合
- ケ 2番員が補助姿勢をとらなかった場合
- コ 器具愛護に欠ける行為(踏み付け、蹴飛ばし、落下等)
別に定める審査項目ごとに該当点を差し引いた残りの値をチームの動作得点とします。

(3) 順位の決定

タイム得点と動作得点を合計し、その値の大きいものを優位とします。

7 競技上の注意

- 消火する際に左右に移動しても構いませんが、消火ラインを超えないようにして下さい。
- 1番員の「放水止め」の号令は、2番員が補助姿勢をとった後に号令をおこなって下さい。(2番員が補助姿勢に着く前に2つの火点が倒れた場合でも必ず補助姿勢をとって下さい。)
- 転倒し怪我をしないように、競技をお願いいたします。